

禮方書

		和書門	
二	三	二	類
六	二	二	號
三	七	二	函
册	架	册	架

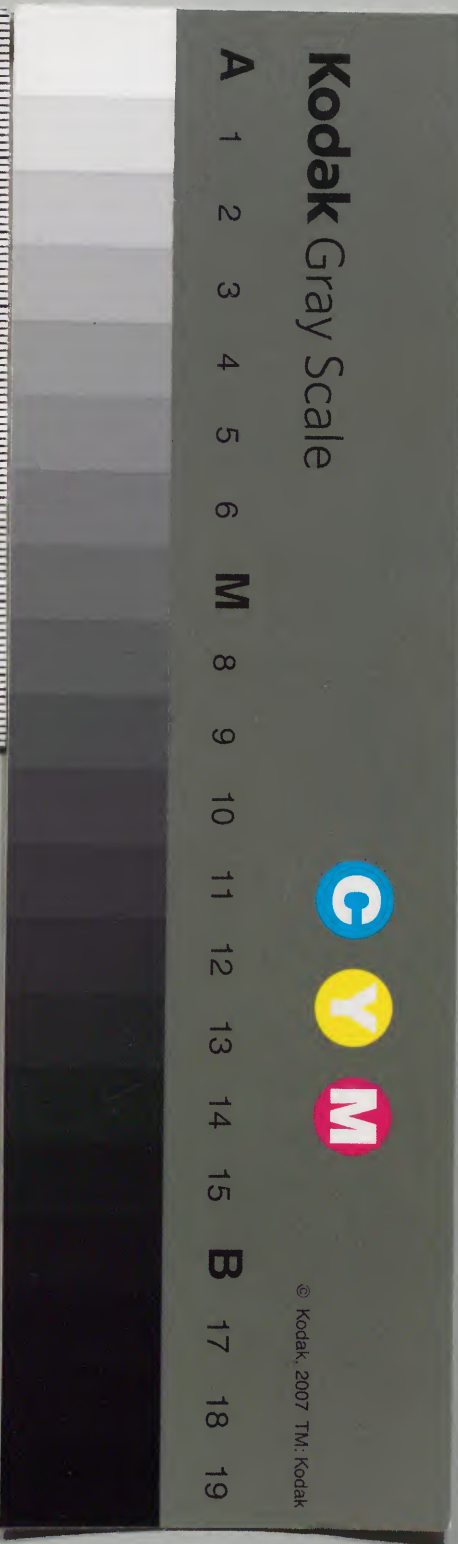
349

庫文閣内		和書	
一	二	二	類
五	三	二	號
三	函	二	函
二	架	三	架

内閣文庫	
番號	和 23222
冊數	3 ( 1 )
函號	153 349

官職八二

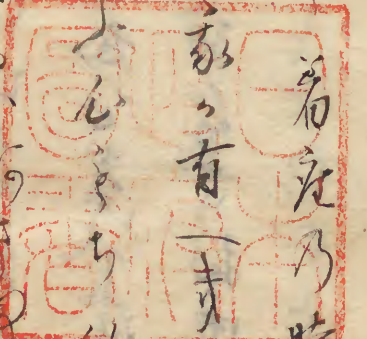
153-349



花廼家文庫

浅草文庫

一人女子海... 人常... 身乃... 海... 子... 漸... 或... 而...



らぬあきとせし事才一ふは乃ぬぬ  
風呂乃伊佐乃事所入るま川ゆり神と  
着る小ふ羽乃因入篠の葉あく天井  
神の四方の板林ルまく雲を拂おり左右  
しぬ主人乃入浴ぬうらみまぬとぬ  
ぬさぬものし所あうさ家とも拍子おり吹  
ぬうし吹きと息をまうし羽とと右のゆか  
さりこし免在りてぬき板中さとりと内纏ま  
吹ものし

伊中へ取言伊佐の事上右とさう皆りぬかり

かけぬふとぬあうし伊常よとさう集りぬ  
夜中入とるに在りま大と持法定きあ入りりを見ぬ  
その後主人と入りぬ遠くあうさぬふ担  
主人文と御覽しして大か入よと所さうゆりぬ  
て引さ此物ぬま火に入  
伊夜取取ト事東床ハ南枕西床ハ北枕よ定む  
一々あう主人乃伊さゆあうさ  
懐糸籠再ると伊目りうけぬさうハ字の  
所とさうさう  
人あめく物の取ると見さうさうま川を一枚

一 行と見ゆ中と云及程見ゆ是  
 一 座既乃事白當より一ハお家行より河川  
 一 庭一と云より人少と云一葉内と云事  
 一 右乃神と引申おと夜及乃知る下と云事  
 一 番盆おかり流かり合番着おきていふ事  
 一 かざるの通り  
 一 かり流と人乃方へお一又ハお盆と云る是時ハ  
 一 面一是二ツむけ申並し是をツ先キ一と云一  
 一 番と云く是より及後及るよりおくと云く  
 一 庭一又貴人おとより流るるハ右乃口と下へ

一 一と云く流と云き一  
 一 灰おし庭を菱形に押一押切の所と丁小おと  
 一 庭一と云くハ心事  
 一 薫乃よりハ灰をおと一おきんと補を流と云一  
 一 榻巻をちとつる事一是よりハ貴人乃乃お白  
 一 是二ツむけの事一  
 一 是より流る時ハ火と云り一お榻おと云流と云  
 一 火より取ぬる座鋪のうちハ榻巻二ツも三ツ  
 一 とも時ハらと云く取お流して取一と云つたハ  
 一 半と云く一と云庭一

一 月乃夜のりし火を 縁ういぬと申す月夜と  
 うすまゝにいしに公付し  
 一 あり火あけり乳受火さきとわきをいしに  
 申すまゝの事と云ふし 火さきとわきと  
 事原事と云ふのし 〇あり火志ぬ火時吹と  
 登りし火油のぬけしをいしにわきと申す  
 引入てし  
 一 火神乃事 二つ是ありは是れ貴人に向し  
 一 屏風と云ふ 雲流と雲流と 純色流と云ふ  
 一 〇流と云ふは 雲流と云ふは 流と云ふは

二 主人は此の事し わきと云ふは 〇ありしに  
 〇と主人乃此の事ありしに 〇ありしに  
 一 主人は文ありしに 〇ありしに 〇ありしに  
 〇ありしに 〇ありしに 〇ありしに 〇ありしに  
 一 墓穴六乃此の事し 〇ありしに 〇ありしに  
 一 〇ありしに 〇ありしに 〇ありしに 〇ありしに  
 一 主人は麻わけありしに 〇ありしに 〇ありしに  
 〇ありしに 〇ありしに 〇ありしに 〇ありしに  
 一 〇ありしに 〇ありしに 〇ありしに 〇ありしに

うらまの字とゆふ下るる。あまのあまの地紙と持  
はし。第一と一

水の水うけぬ。かきとて。くきとゆふか  
くはくくとかけやものし

佛をそしゆん珠とてぬ。麻をとて。ゆ右の口  
よりひらき。番の口在り乃編よりとてす。

硯箱絆紙上ぬ。絆紙ハ硯の下。ゆかお中下。直  
絆糸とゆ右乃もあま。蓋と左乃方。硯と

か。あまをいせと能きや。てとて。くきとゆふ  
より蓋とぬてゆか。くきとゆふ。

二

主人乃御下。くまのひるま中時をゆ飯とく。  
きはりて申程よりよ。折るけ。くまのくきと  
無番端と在り乃手とく。より折右の口。ゆ右と  
さきとゆふ。くまのくきとゆふ。くまのくきと  
くまのくきとゆふ。くまのくきとゆふ。

くまのくきとゆふ。くまのくきとゆふ。くまのくきと  
木の根とゆふ。くまのくきとゆふ。くまのくきと

小神をとりて。事廣く。まのくきとゆふ。くまのくきと  
二つも折る。時神とおゆ。くまのくきとゆふ。くまのくきと

在り乃。くまのくきとゆふ。くまのくきとゆふ。くまのくきと



ちの記いりとおほふあふれも多しおれり  
出し貝に度くもと付しうの巻紙乃御人いす  
一ツも御取あき因に足付中とも履へし  
○在浦へ棟とあきも出し貝と先へ合貝と記  
出とし一〇出し貝乃紙を巻紙乃字へひふし  
ゆ多しき言此二言はたれかかろく向ふし

四季の小袖の事

一 春の色ハ 喜し〇夏色ハ 赤し〇秋冬ハ 白冬冬黒  
黄久ハ極暑中用ゆるし 婚姻ハ此冬ハ用ゆるし

徳巻徳め乃事

二 四月部より五月西迄 徳巻あり

六月部より七月西迄 徳めし

八月部より九月八日迄 徳巻し

一 婚姻ハ白後衣ハ夏ハ白ハ秋ハ赤ハ冬ハ黒ハ  
黒ハ赤ハ赤ハ婚姻ハ黒ハ用ゆるし

志と袖の事

一 九月九日より二月西口迄 志と袖し

四月部より九月八日迄 志と袖あり

仕立部ハ織物純子あて申へし人あて入るし



しんまをい入る婚期乃とまると白綾に色正し奉儀に

十月いのかあひひりさ此の小神申式に

親式髪乃事

ゆつときよりちひふりしけ髪しふうと此乃式ありてふ

りふ髪と結し言位乃ちひふ儀乃時せとまき申少儀に

もよと儀くらあしりりとも指神の内何儀とまらふ髪

申式に

りふの髪



脊あま七の何よりこむゆりふ  
しと白きえゆいしと分祀まき  
そよと奉書そよ分祀巻のり  
そし付るこ

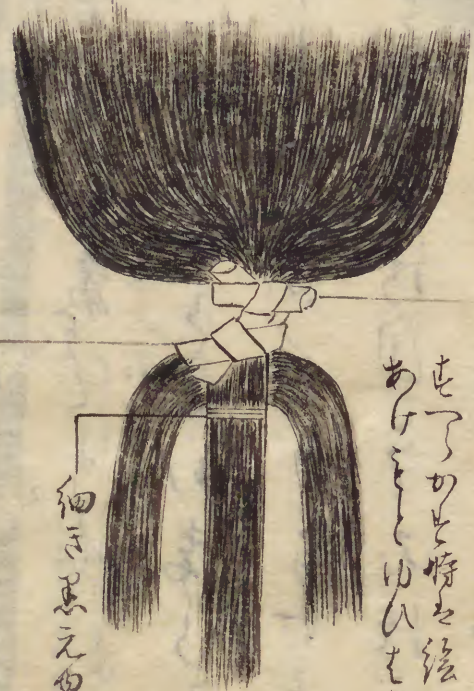
しんまをい入る神とまをまづかしめ結かある人の長

うけと入るこ

あゆり

かし乃

髪



縁えぬい〇長かきしと入る申髪ハよりと  
まらふと時と縁えゆいハうけを世下の  
あけしゆいもよりこ

先より長かきしと  
入るこ

細き黒えぬいとゆり

下と細き黒え結とゆいそよと奉書  
儀念し八分祀しと四つ折しして左の  
え結のこしとあけかぬのこしゆりこ

りふの髪とあゆりかしとまふのりそかあるこ〇

かしうけと入る申のかきしとからるこしゆりこ

しるぎと入る増綱乃とまきと白綾に色並く布綾に

十月のさあひひしき此の中神取式に

*Handwritten notes in cursive script, partially obscured by a stamp.*

ゆつとまよりまハふりまけ髪しふつと此乃式ありて

りふ髪と結しる位乃古ハハ殿乃時せきとき多ハ取し

もよとまらあしりとも振神の内ハ何殿とまらふ髪

本式に

りふの髪



脊のれ七のゆりこむゆりこむ  
下と白きえゆいと各程まき  
其上と奉書とみ分程巻のり  
くし付るこ

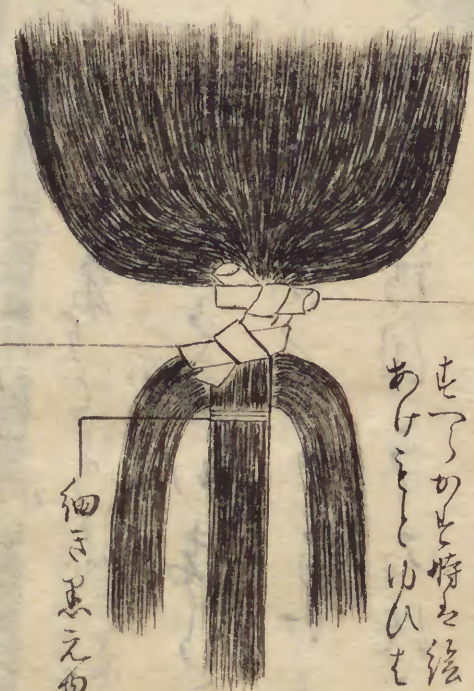
しんまきより神とるまきづかき結かある人ハ長

うけと入るこ

あゆ

かし乃

髪



結えぬい〇長かきしを中髪ハりと  
まアかき髪を結えゆいハけ下  
あけしゆいさうりこ

先より長かきしと  
入るこ

細き黒えぬいとゆい

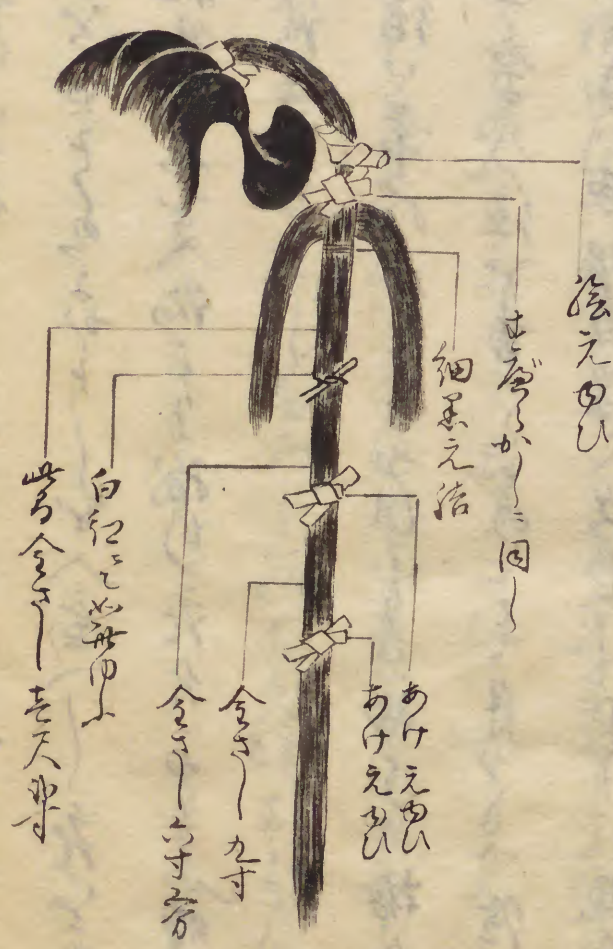
下と細き黒え結えゆいそよと奉書  
帳合しハ分程と四ツ折しそたの  
え結のこくあけかこのこゆい

りふハあゆかしとまこふのりそかあるこ〇  
かきしうけとハ申のかきしとからるこ

一 ちかきしとあける時かど何なる人に初ふ口より  
 清らきまゆりけつを一つ多えまの初んとあへ  
 多のこの髪をうし清へあゆまかきさそ  
 初んとそああり 如房達ハまけえとせとせ  
 昔髪を帝のこく取うまし  
 一 長かきしハ中老まきハかきうまきゆるさめ  
 ちハまきうまのあさくもさけるまの長かき  
 うけしさきハう清川うろ清い何う人  
 一 長かきしま折ハ白ハかきさる  
 根ゆひかき乃島



正屋かき一回  
 長え結  
 あり



長えゆひ  
 正屋かき一回  
 細まえ結  
 あけえゆひ  
 あけえゆひ  
 金さし九寸  
 金さし六寸五分  
 白紅こま舞ゆし  
 紫金さし五寸五分

— 主人かきし掛あつし、い福あまふ時をまつた礼に  
礼笺を並そのあまふしを入並し、礼とあひし後、  
時を礼笺(先)入礼より掛りた付あまふ時、礼もこを  
うし礼に並し

— 信元結ハ帯此年ととあひしうのあまふし梅合銀さいろ  
と、四季乃後と書くとのを月く乃後と用也し  
婿姻のさきハ慈紹白後こあまふしよりハ慈合こ

— 元結のあまふし婿姻のと結ハ帯の子を月ゆし  
まゆハ月ゆしよりあまふしむるし是をわしくまゆも  
あまふしよりし結ハ帯を丸くあまふし (一) 御白

— 並まゆ白乃下も白乃あまふしあまふし白毛の中  
○ 御人ときよりハ信威(一) 如世三月かきしあまふし  
細かくサハ入るし三月まゆも柳のまゆもり  
そ後根ゆひ乃髪あまふしまゆを並し左右ハサハかど  
とよりそのかかありハあまふしつてなまゆよりサハ  
まゆとあまふしあまふしあまふしあまふしあまふし  
あまふし三日とこハあまふしあまふしあまふしあまふし  
あまふしあまふしあまふしあまふしあまふしあまふし

如禮一乃終

縫物之事

一 小袖乃事はさうしつりきぬのむねとあきさけあき  
見ゆるしそ人のかゝりしつりてあき縫ふしつり  
あつ一紙着るる馬と縫ふしつりの内上中一つづり  
縫ぬるまじつと

一 即ちぬはさし法右の袖より縫ふしつり大らら  
左りのともありより縫ふしつり

一 てゝ着ん乃事きは童形乃内着中一のしむハそ  
奥のせよより縫ふしつりの長サはさつ尺あつゆきハそ奥の

ゆびとのむしつ中出よりあつ袖長くはさるし袖と  
あつ袖あつ縫ふしつにあつ乃袖の下に縫ふしつり  
是をさるる縫ふしつりしつりしつりあつ  
細ハ奥乃ゆひしつ即ち寸程色ハ上ハ紫中ハ紅下ハ  
うの深ハ露さつしつりの色も細と同一事

一 おさるる乃事袖とそ人の居しつりしつり  
袖下をぬくしつり是を著袖とす  
あつしつりあつしつり  
あつしつりの法男乃存敷にあつしつり  
あつしつりあつしつり

一 袴乃物ハ織紗後編緋とすハ織物敷表ハ何色

縫物之事

一 小袖乃事はさうらひきぬむ糸とあき志とけり  
見ゆるにそ人のかたちよりとあち縫ふ一とまを  
あの一紙着るると馬と縫一とその内。上中一とより  
縫ぬとま一とと

一 袖の縫はさし法右の袖より縫む一と一と大らりハ  
左りのともありより縫む一と一と

一 てうきん乃事先ハ童形乃内ニ着中一のこむケハそ  
兜のせよより一と一と袖の長サハ七尺六寸ゆきハそ兜の

ゆびとのぞし中出よりみす袖長くはるに袖を  
まら袖ちる修もとと一とあき乃袖の下ニ糸緒とさけり  
是をともろ緒と一と一ととらとみつめ取紋の  
細ハ兜乃ゆひと一と袖入寸袖色ハ上ハ紫中ハ紅下ハ  
うの深ハ露と一とらちの色も細と同一事

一 おさる立乃事袖とそ人の居けりてとまふん  
袖下とぬく一と

一 きちるの  
きつ一と女の衣敷いとうとあちとあ表とあつ一と

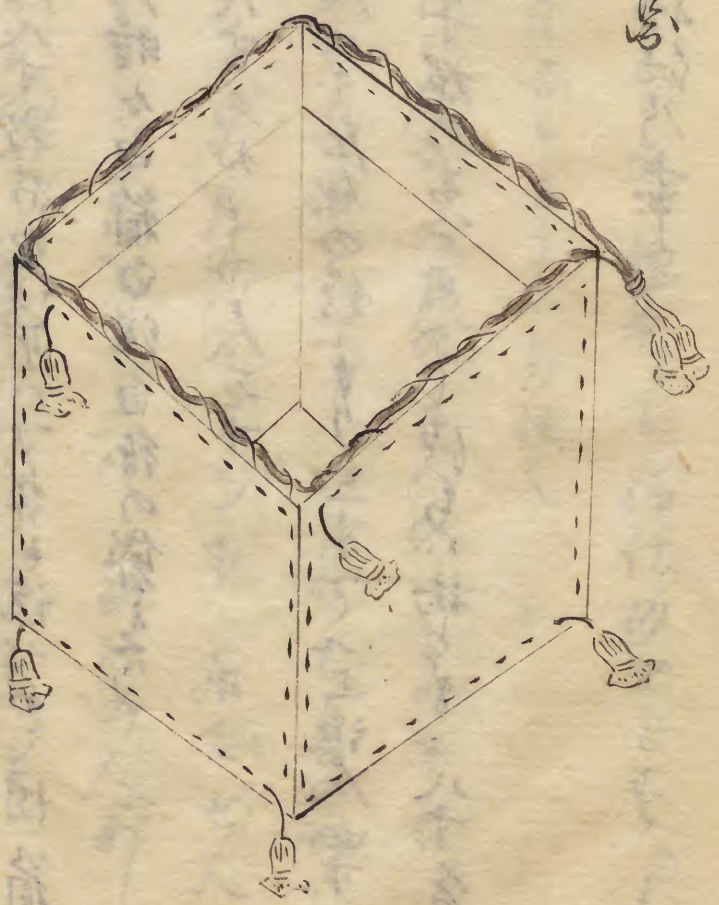
一 襦ろ乃物ハ織紗後縮緬とそ和織物表ハ何色

一 ありとより一表四尺表のゆきみすより八寸のうちに  
 中よりのゆきみととる一神のゆきは延き部尺二寸  
 是も表のゆき同寸ととる一小つまのおとをとり  
 さきのゆき八九寸  
 一 ゆらんの人事ちとんのかう織純子の教しは紫紺の  
 敷四寸みすよりゆきをぬ一ちゆらんは六寸  
 長廿六尺みすは三寸一ちゆらんは面は三寸  
 一 袷のちる乃ものいゆりあはるる松竹乃とゆり  
 一 袷のちる乃ものいゆりあはるる松竹乃とゆり  
 一 袷のちる乃ものいゆりあはるる松竹乃とゆり

一 表は三寸ぬとせし一ゆきの厚さみすは三寸厚さいあけ  
 一 ありとより一  
 一 て志と袷といふを長廿二尺みす厚さ三寸は四尺四寸  
 一 厚り幅三寸み六分  
 一 一つねと復久は織ものまはるのあはるをとせは三寸  
 一 一は後乃事四寸ゆきの厚り幅三寸み六分ゆきのあはる一  
 一 厚りゆきのあはる一ありととる一箱に入るゆき  
 一 ニツクニツクはむしゆきを二入  
 一 枕の事純子厚織の敷は尺三寸ありゆきは  
 一 十二ツ長廿二寸のまはるは好ことととる一袷の厚さは廿

一 六尺二寸 白布を中へあてを番と入る  
 一 蚊帳の事をもくし赤い志や乃敷の四ツのきこふ寸四尺  
 一 四天王と付くうねおねの初をあげあけまきとりる  
 一 ふかさの事地は唐織純子の歌巻に福をきくしあまを  
 一 付へし袋束の糸はうらねに袋束のあまりと口の四ツ角  
 一 四ツ角の四角に四ツ角とし口のわら糸は紅の三ツ角  
 一 大はこい丈ヶお八寸とこお八寸四角はとを丈八尺  
 一 中はこい丈ヶお八寸とを丈八尺  
 一 小はこい丈ヶお八寸とを丈八尺  
 一 ひと紅のハツサシ

一 表さしはこい乃袋



一 此袋は小神あしき五紙をとりあしきあしき  
 一 道ゆく時とけとけし  
 一 物あしきの事あしき三寸六分柄あしき二寸五分あしき三寸七分



— 多ら板、柳長廿八寸厚廿寸幅五寸  
物さし素乃木

— ぎぬより長廿八寸高八寸厚五寸五分  
志わし長廿八寸厚五寸五分

— 志わし長廿八寸厚五寸五分  
志わし長廿八寸厚五寸五分

— 志わし長廿八寸厚五寸五分  
志わし長廿八寸厚五寸五分

— 志わし長廿八寸厚五寸五分  
志わし長廿八寸厚五寸五分

— 志わし長廿八寸厚五寸五分  
志わし長廿八寸厚五寸五分

— 志わし長廿八寸厚五寸五分  
志わし長廿八寸厚五寸五分

— 志わし長廿八寸厚五寸五分  
志わし長廿八寸厚五寸五分

— 志わし長廿八寸厚五寸五分  
志わし長廿八寸厚五寸五分

— 四月九日より九月八日迄、腰巻を  
九月九日より三月晦日まで、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し

— 脂乃と名をわける、たの  
はとせし三つあり、お掛し



或は夜あましく押付たりて能くあんとせしむる浦  
ありて又貴人といふ流の世居るにかなり切て申の一切を  
あらしむる事として来たなり

併喰をうて三月にありぬやうに喰ひてあるまゝのこ  
氣をあるなり

希飯強飯の中につれと若く喰ひ

湯菜まいると此れとぬる此れ鼻くるとと鼻をほきり

かよひはあくと息はきり一息がとるくすりき物こ

常にかぬる仕事はんが試みるむなり

砂取をく純子の業乃く録のきいどかきく探る探る

左へあり右のひきせとちと取のへて取なり

同補ひさけをほる此中程を左のものと実加ぬく補

居と登るなりくまへ居るなり一産補つまりなり六抱なり

内へ入る如く居るなり

吾の事内より古き中へ

塚及乃時をむと此砂の塚里とあると此にわきき取るなり

常此砂めけ中砂むむとと抱うなりなり

吾系りぬる左のものと実吾をぬむなりとさけていふきや能く

人よさと時ハ下とあり吾をぬむと此の基の上よなり

女書法

多そ文乃事并一目言ま方へおけ申時を新男一うそ福  
そのトて上包一うそ福横に折る包こ上を捻りし

後小端のし

かよのし折方 小さい

名中一上

一 おしゆこい一うそ福よりそそのお奥より巻表の  
乃そしこそそ折るしゆをしゆと巻表の  
書中しゆをしゆと折るしゆをしゆと

あうまうそ福

式部

名中一上

うそ

同し折るし  
うりたる福

さうん

しゆ

あま

一 内針乃ゆい細ふ乃しゆ 別乃成りし上包し

上下と折双るの各と書中と水引しゆを  
つりし

標のり封の世略ありし

因封乃祈

式部

上  
下  
中  
下

さかん

一

上  
下  
中  
下

上  
下

中  
下

下

下

下

一

將統乃祝儀乃文ニカフニクマシク  
カ多ク其文之書ニシテ

カ多ク其文之書ニシテ

一

カ多ク其文之書ニシテ

志人上	十卷	廿把	千多	心工
-----	----	----	----	----

か

目録ハカサねカ細  
 うヤキカ方止カ志人上書  
 一ノ下ノ方止ハ志人上も  
 各カカカカ  
 此乃事小神カ英格カ  
 此乃事小神カ英格カ  
 此乃事小神カ英格カ  
 此乃事小神カ英格カ

新真極より

四小より三

三と五との

是ハ門外ノミヨク  
二ノミヨクハ  
三ノミヨクハ

一 以心物目錄

是ハ下より上より時

少極極四也	四小社 三かきね	四かうち 一ツ	四番人 一ま	一と
-------	----------	---------	--------	----

五全	かほ後 二ツ	くまこ 一ツ	望上	子の名
----	--------	--------	----	-----

懐紙書

年内乃梅こゝろ しんが秋

雪のうき うき

中か

梅乃

比

一 書

一 書

一 懐

一 懐

一 三

○

一 經

一 徳

年内梅

雪のうき うき

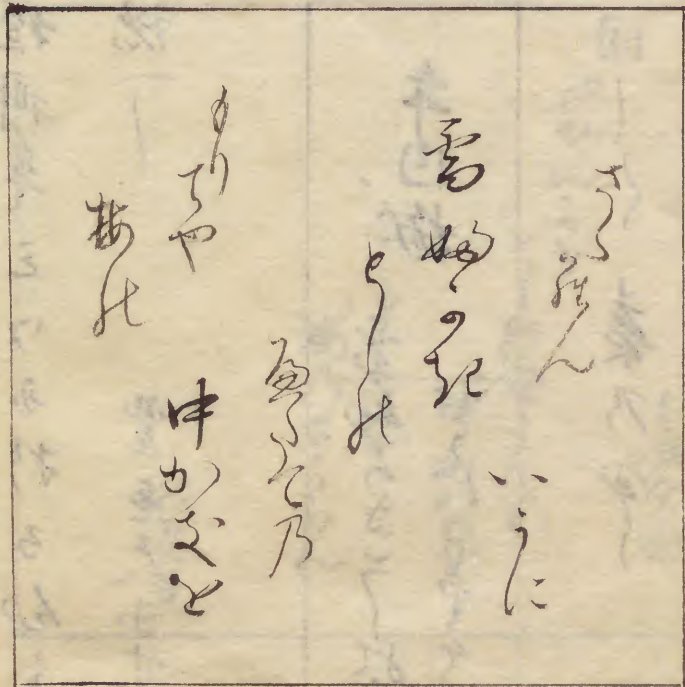
同

比

志き一寸法

豊六寸

横五寸六分



色紙を懐紙におき  
 いはくは子孫を  
 可くしきと一丁の紙  
 と同く初之を  
 申かた

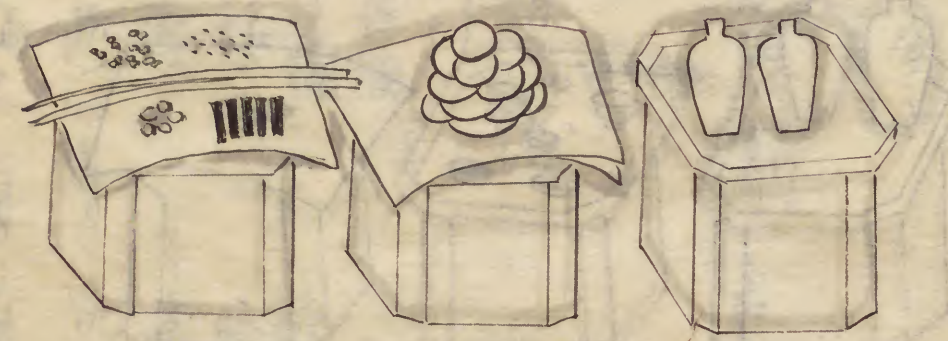
懐人帯之式

一月の月吉日とありし祝儀有し一生絹長さ  
 八尺四寸ありて丈女房乃右乃袖より渡し女房  
 袷取扱ひしと子孫下まじり丈婦は是取  
 吸物酒を出し祝ひまじり先ハ當座乃祝云止  
 切誕生にて彼給と祈りて加あまを付して居  
 るしハハ春着浅黄表白とハ祈りて居  
 繻のさしと八尺結肌帯より一旗多き女房  
 出火小旗蓋又ハ帯とて包をとりて親類乃  
 うちう家人と奉りて此時曇目鏡乃後人取



老女と定ふは先等ありと致候と出たり  
 右乃よりしちしとしと比致候は酒肴と添  
 へ緋白と書入る事し深ゆけはとて加致し  
 子と申す中いませぬ<sup>しつ</sup>ゆるりゆるり  
 仕立とて着るるしと申す種彦高少ゆき  
 せんとし

着帯御飾り



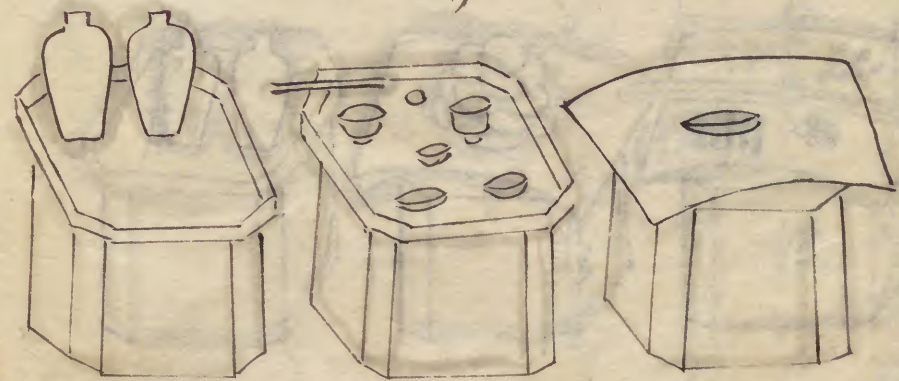
麩  
 昆布  
 昆布  
 昆布

餅十  
 以  
 由天

酒  
 蝶  
 取  
 包

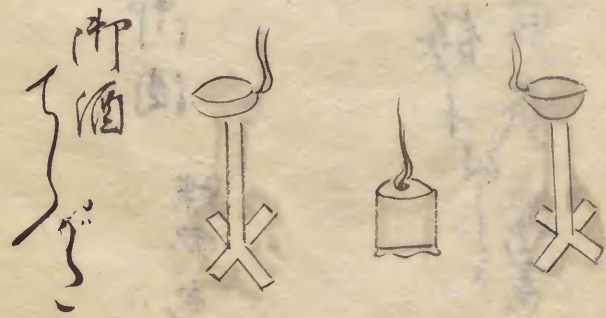
産神木の器

是、産乃當目



神酒  
言石  
かき

あし



御酒

同下乃木の器

胞衣たがひのたがひ竹たがひ

右白紙の紙二包

菅

みゆ古器

水川

胞衣桶

福徳桶

末廣

候徳箱  
候徳板  
奉書

如新ありし三折二折の火筒

近代胞衣桶とて火土飾事古法にわたりしを  
不用

篋刀乃事

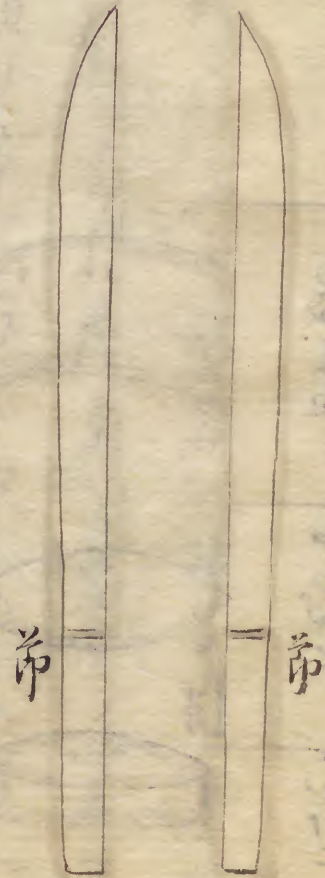
一 胞衣口入青竹あり作る帯の小刀のことくみりて  
柄を矢あり巻水引とむとよよ白紙有りさそ  
よとよ白紙乃紙包水引めて捲包ありさう天正  
ハ前年矢乃篋と用ひし一處よのりさそと  
しとくみりし中七雲を交陽竹ありさこり陰竹と  
こりしとやとす福とくさそ帯乃小刀としこり  
とやとくし九口し

同書

陰竹右舟

陽竹左舟

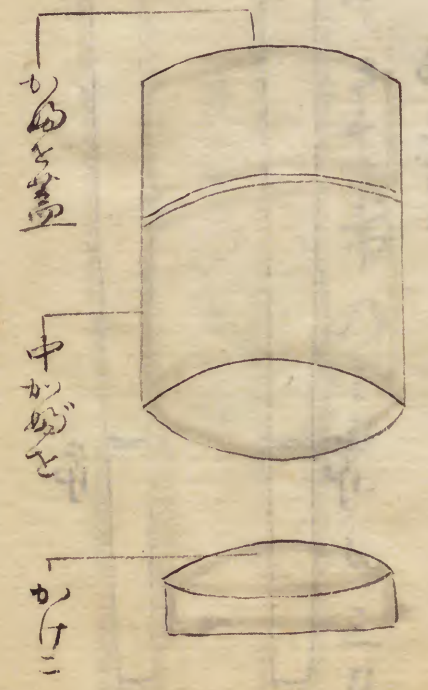
いづれとも長さ七寸五分 幅九分



かくれこも 柄を包むし帯乃新五小刀一舟是と  
録とさそゆ右のことくみり色こ

名分細書

一 第百産所乃下と切ふ白紙の丸桶と入置さして  
 誕生ありし時胎乃流を管うし清水引し始末の  
 二〜九口こころや一胞衣桶入置斗と流産所の中へ  
 納りし名分桶の曲物あり白紙あり



七夜乃流し

一 誕生し七夜より一よ童名を付る目う人乃  
 人よ七一産後と多れ産所と着さる四赤子  
 一産子つし護り等と出入しふく流し入家人  
 一産所七夜より一よ童名を付る目う人乃  
 一産所七夜より一よ童名を付る目う人乃  
 一産所七夜より一よ童名を付る目う人乃

一 産所七夜より一よ童名を付る目う人乃  
 一産所七夜より一よ童名を付る目う人乃  
 一産所七夜より一よ童名を付る目う人乃  
 一産所七夜より一よ童名を付る目う人乃  
 一産所七夜より一よ童名を付る目う人乃



七夜床乃知

餅十二

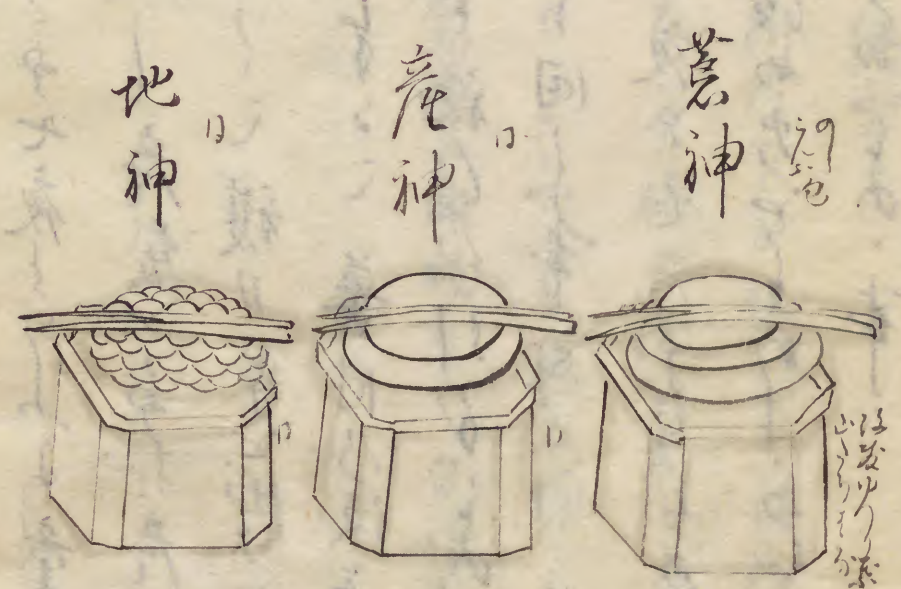
改各  
おちり  
おちり  
但係ハ名ノマシ

六角俎物

二重俎

三ツ七

産前と産後の此俎物三日と七夜手申並に



地神

産神

荳神

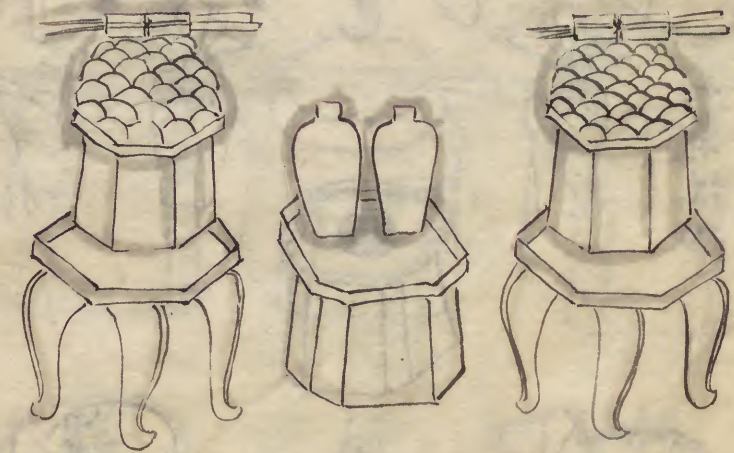
餅三十六  
三ツ六

餅二ツ  
三ツ二

餅三ツ  
三ツ三

三ツ一

うら玉廣中昆布改しきりやこ茶菊天比のき  
とむらこを此新あり



か  
毎  
改  
し  
き

御  
酒  
改  
し  
き

か  
毎  
改  
し  
き

百日麻焼りるくみ十日のこくくありし毎の教百  
九くしそ一合ニ教二十つ盛くみ焼り改しき  
同安御酒同安し

宮系り乃史

一 徳守乃氏神古まのりしきり一 帰宅乃希人乃  
とくく一之り多し古法に日教定し  
例か

近代男子ハ三十一リ女子ハ三十三日あり  
宮系り長る事ありあり

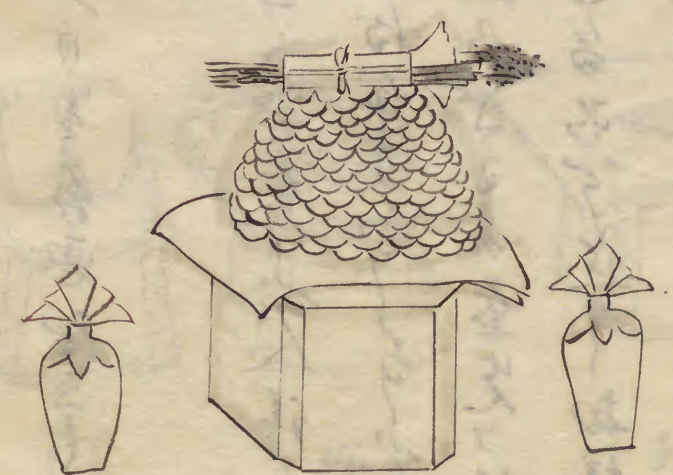


分限上意一似合の川よよのり也一

喰初床之品

餅穀百二十より  
のりよよを意初  
紙よよに申すり  
よよ申す

包よよててててて  
形よ包一瓶子を  
あり

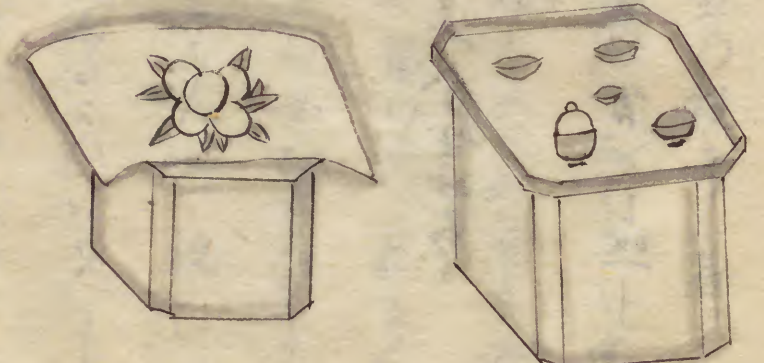


喰初膳之品

食ハみ申かりけよかしく大五人  
盛り上ニちりち名の形日さよを  
汁ハ細を難かりむりの右のち  
かかかいらたニ梅テ入り申す石も  
つれ大申かりけこ

菫固餅乃品

此よりりをを餅五分と  
買とと一



男如ともり此式の多かり事分一



髪結之式

一 男如くとしり三歳より十一月十日より三歳とありし女

髪を結ふ

一 髪を結ぶ箱乃草三此草を以てし

桐

元結

藁七節

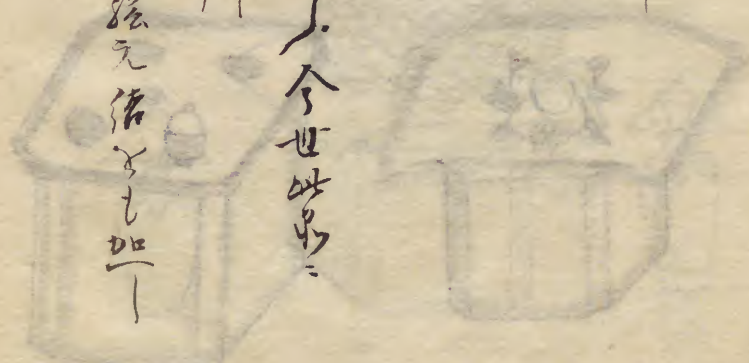
水川

磨斗

是と髪結の七種とし今世此也

若松 麻斗

はあまかぶら女子あは髪元結とし也



一 稚きものをむかりびつりを髪を乃親さしありしときし

た乃心んとそとこをさし扱右の心んとそとこ中とこをさし

たまむし申の巻目とたまむし扱るるの髪を額より後へ

あつく扱をわへ磨斗一房より七節より結するは扱と元結

とし男むしむし中とま川としむしむしむしむしむしむし

かむよりむしむしむしむし扱式を心ん乃扱むしむしむし

川心んものをさしあは心ん乃扱むしむしむしむしむし

一 男子あは男の髪を結むし女子あは女乃扱ありはあああ

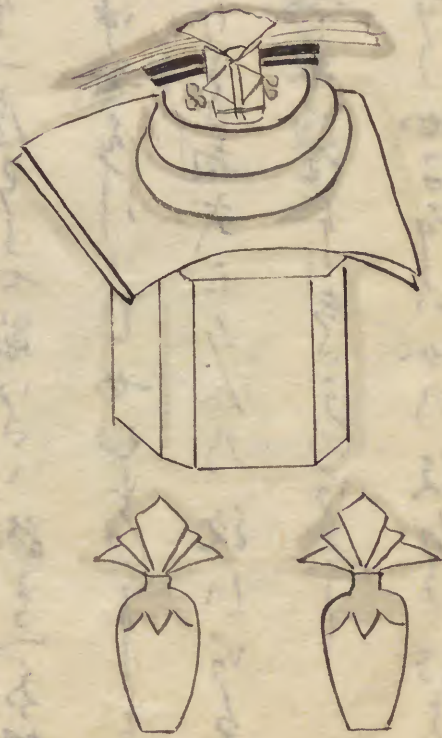
かああ右の心ん心んよりこをさしこをさし神さあり扱む

のむし男子あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあは

緩急座乃座

餅三  
昆布  
栗  
末度  
瓶子一双 楩形ニ包  
きあり

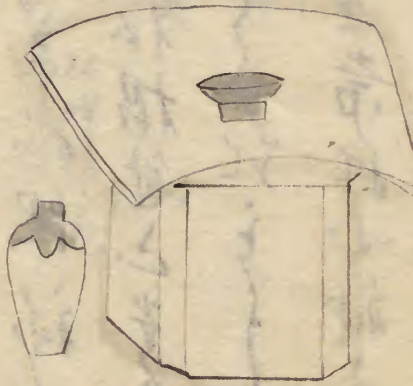


かひき 初之式

- 一 かつきまじりし事 小歳乃去之 二月初五日 式多そ日乃あむおひらうとしかけう路て口と丹 たりお式之献と出し 祝ひてかつまを取し
- 一 かつまは地神り 家給又生給とて 松根笹ふきちたき 衣甲小紋いつの けしきとてしとてし
- 一 仕立帯は小袖と同し 丈ヶハそり月と相懸ふた けり少男房よりとて 通用の丈ヶハ  
丈ヶハ尺五寸 袖下七尺五寸 忍子六尺

芝草通例おとあはれうきこ子供は身お恵も

麻乃包



あひ茶

御酒

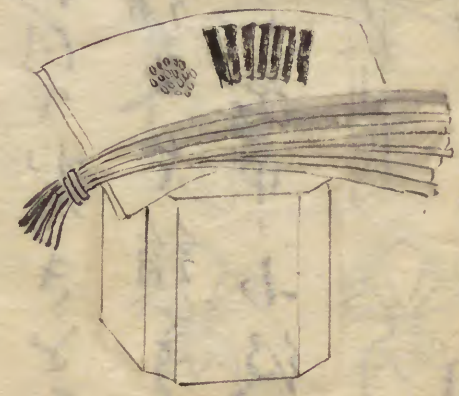


御酒

餅二

厚斗

昆布



のり

芝草の包の四角乃  
お恵り

ゆづり起乃式

ゆづり起の事 五歳乃喜

五歳乃喜の式ハ其の盤乃  
祝なり

ゆづり起と人との日の由女よむらとを

五歳乃喜の  
土まに合ふ

ゆづり起と人との日の由女よむらとを

ゆづり起と人との日の由女よむらとを

五歳乃喜の  
土まに合ふ

ゆづり起と人との日の由女よむらとを

ゆづり起と人との日の由女よむらとを

ゆづり起と人との日の由女よむらとを

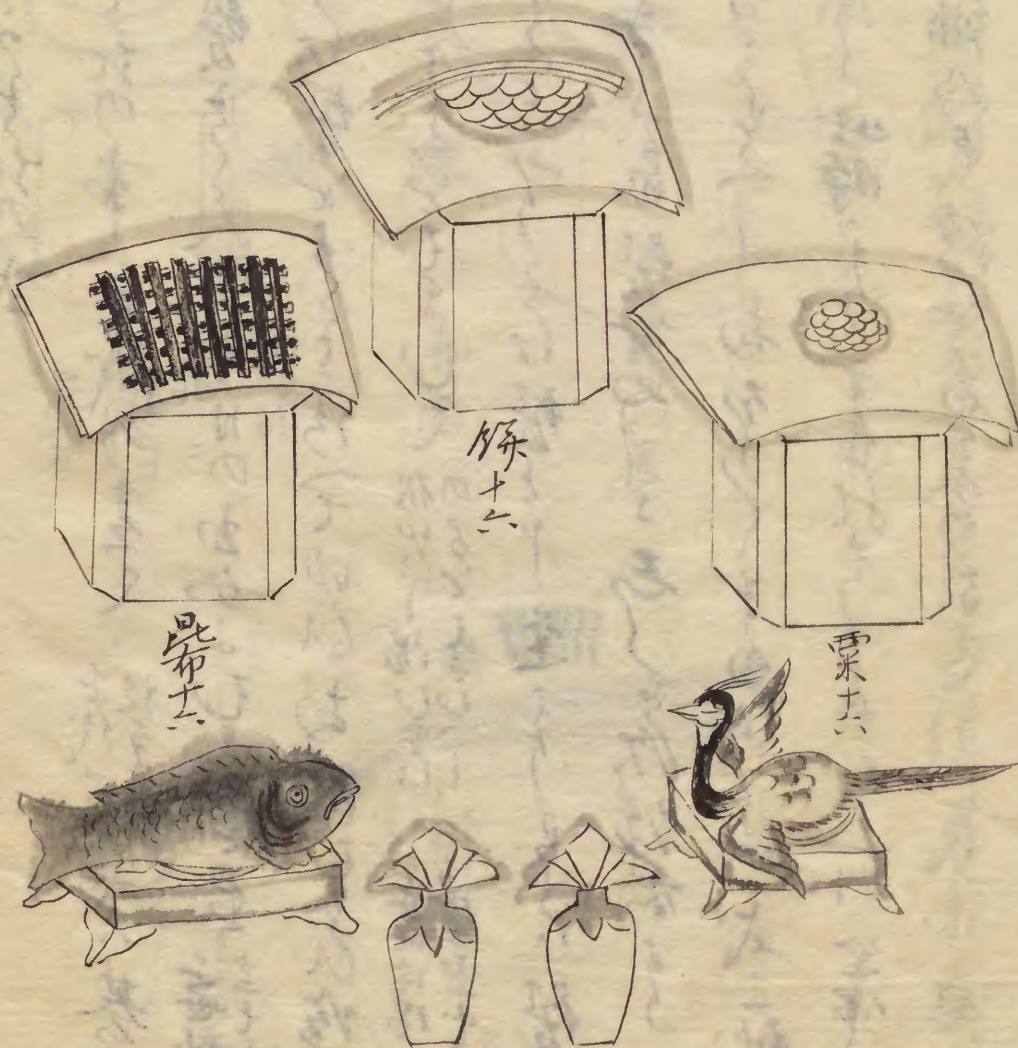
ゆづり起と人との日の由女よむらとを

ゆづり起と人との日の由女よむらとを

帯解乃式

一 帯と起乃事 七歳の十月十日日、細帯と  
 此家あり 帯乃多き地白地赤地黒乃因こ  
 松竹梅鶴龜ノ家の紋と織縫うと申也  
 いしひの金、おさうた人とその目玉お女  
 むらとさうとさうとさうとさうとさうと  
 式三献乃いと少の取立

回廊かきとの巻





雛子羽揚枝 二丁

付ケ揚枝 二丁

雛子揚枝 二丁

紅 二

紅筆 二丁

牙白道具不残

大急須不残 二丁

七和せうす太小三つ舟赤心  
三つ舟 法皇水道具不残

一 初祓付包の事 虎ノ渡 右ノ初祓もきし上り  
こころと木とを並せし寸三つ舟と一並右ノ初祓を  
入申ノ如く入虎ノ渡を入るニ雛子羽揚枝を  
つら右ノ並し又引合ノ折す此始少松山鳥  
此此三を清く公卿よのと初し一付らす  
清く家折すさし口と折す初玉女

ひしひと親をば神よむひしひと雛子羽  
くめり神とてお右右の筆とつら  
之及くめり筆と取添液止く初化粧  
は仔細て左取は初親と式三献乃祝ひ

床乃忌



初飯  
初心  
末廣



餅  
南天



新人の式

一 新人をききおつとぬそく事牧實に嫁しと後

の式（近代十六歳の正月三日に夜きりしむるに）式の包し柳の

新人板二枚も方、とけて是（一）お栞箱の蓋よ

小刀 一對 （たを包し） 櫛 五具

手紙 一折 （たを包し） 法元結

白紅水引 （此をとぬ所は女房持事）

一 新人をく人とお女、むらとをまはる新人栞を

右の新人は水と付小刀あて云度るをうし流り

流りしてた乃新人のかさ、くし新人板、河を

御し小刀よそくし右乃新人とくおとるし

おるり流ちぬかきとかあきとくし

ゆあきり一原お新人をさる、かけりるし

式三献乃いし女の歌（一）

そきし付髪と白知しゆい紙、法（一）新人を

氏神に細り事あり

新人板二枚柳とて此（一）寸法

高（一）三尺七寸 作し内角（一）可作

麻飾（一）

新人の式

一 新人とききおつとれそく事牧實に嫁しと後

の式（全代十六歳の正月三日に夜きりしむるを） 式の包の柳の

新人板二枚とも方・とけて是（一）お栞箱の蓋よ

小刀 一對 櫛 毛具

手紙 一折 元山（一） 結

白紅水引 此水と紙添り女房持書（一）

一 新人とく人とお女（一）むらとそく事牧實に嫁しと後

右の新人は水と付小刀あて云度とそく事牧實に嫁しと後

備りしてた乃新人のかさ（一）新人板、何そ

御り小刀よそく事右乃新人とそく事牧實に嫁しと後

そりたり遠ちとれか（一）とそく事牧實に嫁しと後

ゆあなり一原お新人とそく事牧實に嫁しと後

式三献乃いよ女（一）

そきと付髪と白紙とゆい紙（一）法（一）新人と

氏神に納り事なり

一 新人板二枚柳とて作（一）寸法

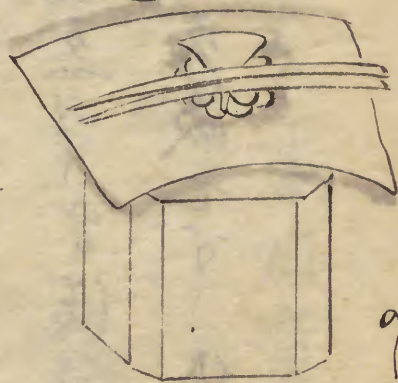
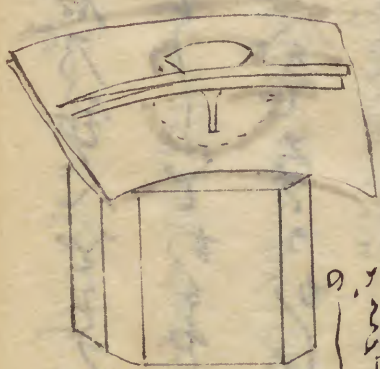
高（一）三尺七寸 厚渡七寸 作り角（一）可作

麻飾



誕生日乃事

一人を以て多望年此誕生日を一日といふもの男子  
 ありハ子矢獨りの類也子ありハ系計書也此之字物  
 父よりより法のいふ一書父か式三献乃祝を  
 初産神口とありものよりと一書此日ハけること  
 神此と多事とあり  
 初産神口とありもの飯あや七菜子高女上さるを  
 是し計ハ鯛ハ鯉右にかかからしり神より梅月一  
 中ニ石より相たりハ餅一童子上の一ハ心助右ハ赤  
 改改南天父かか生子ハ餅赤飯と一書



おとりの  
 のし  
 末  
 廣

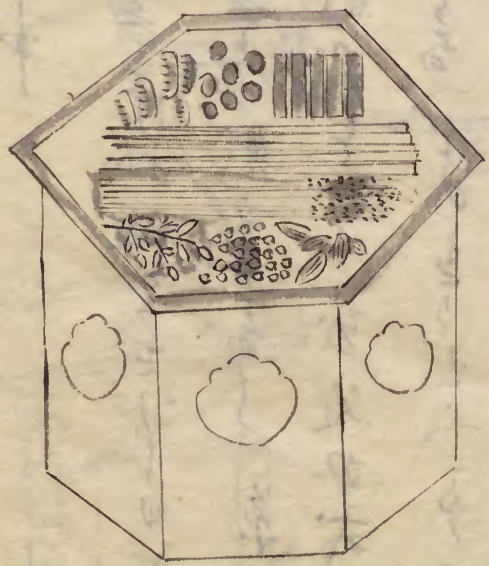
おとりの  
 のし  
 末  
 廣

年賀うゑ式

- 一 賀の紙は乃巻、龜甲かゝし紙の枚数亦方（下）ケル此巻と
- 年賀乃人（右）能占るとし、續る式三献の紙に有（一）
- 床（目）切髪掛物相せの立花卓（番）とせ（一） 氏神（り）ち
- 一 主（子）傳（一） 一（そ）ろ（ろ）と（一）

條のど（紅）し壽の字（と）書（り）  
 事（古）字（に）依（ら）る（一）

龜甲の巻



尺（七）止（一）  
 厚（寸）六（と）一（一）  
 柄（千）八（十）九（一）  
 お（や）こ（ろ）さ（一）  
 穀（の）子（一）  
 南（天）  
 柄（千）八（十）九（の）穀（の）子（一）  
 多（く）も（と）一（一）

